

# ヒラメ



## 生態的特徴等

### 【生態】

沖縄を除く日本沿岸から朝鮮半島および樺太に分布。主に、水深 100 m 以浅の砂地に生息する。稚魚期には、アミを捕食しているが、成長に伴って強い魚食性を示す。成長が早く、1 歳で全長 30 cm、3 歳で 45 cm ほどになり産卵親魚となる(図 1)。全長 40 cm 前後の物は「ソゲ」と呼ばれる。寿命は、雄 10 年以上、雌 20 年以上。栽培漁業対象種として H7 年以降、毎年全長 10 cm の稚魚数 10 万尾を放流している。「茨城県のさかな・旬のさかな(秋)」「プライドフィッシュ」に選定されている。

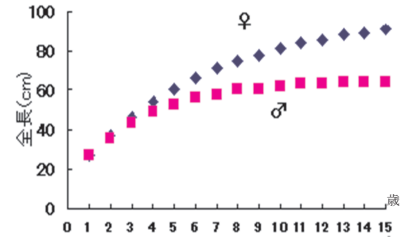


図 1 ヒラメの成長

### 【漁法と盛漁期】

主に、底曳網で漁獲され、固定式刺網(建網)や曳釣りなどによっても漁獲される。

### 【利用】

刺身や寿司ネタのほか、煮つけやフライにも利用される。茨城沖で漁獲されたものは常盤ものとして品質が評価されている。

## 資源水準高いが減少傾向

(漁獲量) H 元年以降、200~250 トンの水準で推移してきたが、H23 年以降増加し、近年は 440 トン以上の漁獲が続いていた。H29 年は 400t であった(図 2)。

(加入量) H22 年に大規模な卓越年級が発生し、その後、継続的に稚魚の良好な発生が続いている(図 3)。

(水準と動向) 漁獲量の推移から資源量は「中位」、動向は最近 5 年間の漁獲量の推移から「減少」とした。

水準



動向

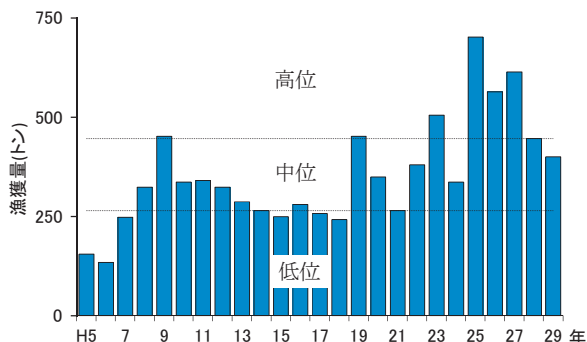


図 2 ヒラメの漁獲量 (農統, 属人)

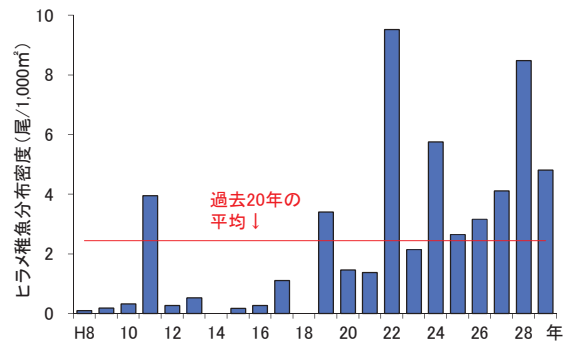


図 3 ヒラメ稚魚の発生量の推移 (水産試験場調査結果)

### 【全国の漁獲動向】

- ・茨城県では那珂湊、平潟、大津など底曳網の基地が多い。
- ・H27 年は全国的に、1 位：宮城、2 位：青森、3 位北海道に次いで茨城は 4 位の漁獲量。

評価期間：平成 29 年 1~12 月 更新日：平成 30 年 11 月 1 日